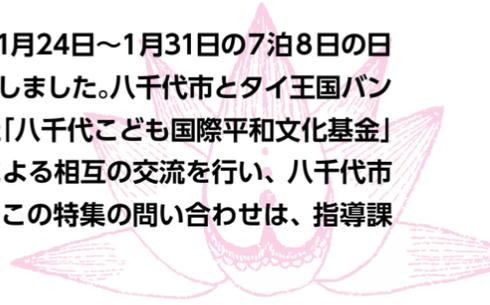




29年度八千代子ども 笑顔がつないだ

八千代子ども親善大使一行が、1月24日～1月31日の7泊8日の日程で、タイ王国バンコク都を訪問しました。八千代市とタイ王国バンコク都は、平成元年に設置された「八千代子ども国際平和文化基金」の事業により、子ども親善大使による相互の交流を行い、八千代市からは今年で29回目となります。この特集の問い合わせは、指導課 電話481-0301へ。



世界に貢献できる人材育成のために

市では、昭和63年に国が実施した「ふるさと創生1億円」を活用し、平成元年に「八千代子ども国際平和文化基金」を設置しました。この基金は、次世代を担う子どもたちが国際理解を深め、世界に貢献できる人になって欲しいという願いが込められています。平和の大切さを知り、多文化を尊重する心を養い、世界に貢献する人材を育成するための基金です。

この目的を達成するため、市では、八千代国際子ども文化事業により、今年度は、国際平和作文

コンクールの入賞者の中から選ばれた子どもたちと、八千代子どもサミットのメンバー12人を子ども親善大使としてバンコク都に派遣しました。バンコク都は、アジア圏では日本から比較的近く、親日的で日本の皇室との結びつきが強いことから派遣先として最適とされています。

授業や交流会などを通じて タイの良さを学びました

子ども親善大使一行は、タイのさまざまな拠点を訪問しました。バンコク都知事や都議会議長への表敬訪問では、タイで大切にしていることや洪水対策などを質問し、タイ王国の政策などについて学びました。プラ・チャー・ラート・ドム・ペン校では「トゥクトゥク」という珍しい3輪自動車に出迎えられ、日本とタイの国旗を手にした児童生徒に歓迎されました。授業体験では美術、踊り、音楽、語学などさまざまな授業を体験。見たことのない楽器や作品作りな

ど、タイの児童生徒に教わりながら友好を深めました。防災対策などの意見交換も行い、環境の違いを考えながら必要な対策を一緒に話し合うなど、お互いの国への理解を深めることができました。

親善大使は、日本の昔話や八千代市の紹介を英語で行いました。また、タイで子どもに親しまれている「おおかみと少年」の劇などをタイ語で披露。会場は大いに盛り上がりました。最後にフットサルや綱引きなどを行って、お互いの距離を縮めることができました。

学校交流会の他にも、世界で活躍している在タイの日本企業や日本大使館を訪問。世界で活躍している日本人や日本企業の進出の現状・タイ情勢の理解を深めました。

バンコク都の子ども親善大使のOGOB会“テップウタイ”のウエルカムパーティーでは、タイ料理や踊りなどで温かいおもてなしを受けました。この会は出会いを忘れずにいつまでも友情の絆を大切にしようという想いから作られました。



バンコクとは？

バンコク都はタイ王国最大の首都です。約240年の歴史を持ち“天使の都”とも呼ばれています。チャオプラヤー川を中心に運河が発達し、豪華な装飾の寺院などが点在しています。中心地には高層ビルや近代的なショッピングモール、鉄道とは対象的に、たくさんの市場や屋台があり、活気に満ちています。日本からは約4,500km、飛行機で約6時間掛かります。バンコクの首都の正式名称は世界で一番長く、タイ人も歌にして覚えるほど。

▶人口 800万人 ▶面積 1568.7km²。八千代市の約30倍 ▶気候 熱帯モンスーン気候。平均気温29度。3月～5月が暑期、6月～10月が雨期です



▲さよならパーティーでホストファミリーとバンコク教育局の方々と記念撮影

広告

広告